

## 2009年の新成人は"エコ・エリート"

- 中学時代から環境を「勉強」として学んできた豊富な知識を持つ。  
(義務教育で「環境教育」を受けて成人になった"第一世代")
- 但し、実際の「環境行動」実施にはまだあまり繋がっていない状況。  
("分かってはいるけどできていない"という一面も存在)
- 物事に対する「合理的な思考」と「バランス感覚」を持つ。

★ 環境行動:「節電をする」「マイバッグを持つ」など、生活者が行う環境に配慮した行動

「ADK CSR DESIGNiNG」では、「生活者の環境意識や環境行動」について把握するために、定期的に生活者を対象にした調査を実施しております。今回2008年10月に実施した調査では、特に「2009年の新成人」にフォーカスを当て、これからの「環境社会」「環境消費(環境に関わる消費活動)」を担っていく彼らの「環境意識や行動の特徴」について分析を行いましたので、ご報告させていただきます。

まず、環境に対する知識/意識について見てみると、中学時代から「環境教育」を通じて「勉強」してきた彼らは、環境についての知識が豊富な"エコ・エリート"であることが分かりました(参考:「環境教育」は2002年の「総合的な学習の時間」開始により本格化)。但し、思春期に差し掛かる中学生から「勉強」を開始したためか、彼らは環境の知識を上世代ほどは重要視していないようです。

次に、このように環境に対する知識が高い一方で、彼らが普段どの程度「環境に配慮した行動(環境行動)」を行っているのかを検証してみると、成人全体に対して総じて行動実施率が低く、まだまだ知識が実施に繋がっていないことが確認できました。彼らが環境に対して「企業に任せるだけではなく一般市民も率先して活動をしていかななくてはならない」と考えていることから考察すると、この背景には、「分かってはいるけどできていない」という現状があるようです。

また、彼らの物事に対する考え方を検証してみると2つの特徴が浮かび上がりました。1つは物事の判断において「自分にとって良い/悪い」という合理的な思考をする傾向があること、もう1つは若者らしい「チャレンジ精神」と「安定志向」の間でうまくバランスを取っているということです。今後、彼らの「環境行動」を効果的に促していくために、彼らのこのような考え方の特徴を考慮していくことが重要と考えられます。

今後も「ADK CSR DESIGNiNG」では、各種調査分析などを通じた生活者へのアプローチメソッドの開発、社会貢献のリソース開発やネットワーク構築などにより、企業のCSRコミュニケーション活動を総合的にサポートして参ります。

この調査結果に関するお問い合わせ先

コーポレート本部 広報室 矢島 正司

Tel:03-3547-2003 / e-mail : yajimas@adk.jp

コミュニケーションプランニング部門「ADK CSR DESIGNiNG」林 裕真 / 斎藤 卓也

Tel:03-3547-2226 e-mail : hhayashi@adk.jp (林) / tkys@adk.jp (斎藤)



## 調査詳細 及び データ

### 【生活者の環境意識/行動に関する調査】

#### 調査概要

調査目的

生活者の環境に対する意識/行動の現状、及び  
企業の「環境問題に対応する活動」に対するニーズを把握する

調査対象

15歳以上の男女(中学生除く)  
※ 調査会社保有のモニターパネル

調査エリア

全国

調査手法

インターネットリサーチ

調査期間

2008年10月24日(金)～10月27日(月)

有効回答数

1,244サンプル 性年代均等割付(下表参照)

※ そのうち2009年の新成人(本調査時点で19～20歳の人と定義)は、  
86サンプル(男性：47サンプル、女性：39サンプル)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男性	103	104	104	104	104	103	622
女性	103	104	104	104	104	103	622
計	206	208	208	208	208	206	1244

## 今年の新成人は、中学時代から環境を「勉強」として学んできた豊富な知識を持つ“エコ・エリート”である。

「2009年の新成人(1988～1989年生まれ)」の環境に対する意識/行動や育った時代を検証していくと、彼らが中学生時代から「環境教育」を受け、環境に関する知識も豊富な“エコ・エリート”であることが分かりました。また、そのように環境に対する豊富な知識を持ち、「環境のために企業だけではなく一般市民も行動をすべき」と考えているにも関わらず、彼ら自身の「環境に配慮した行動(環境行動)」実施度はまだまだ低い水準に留まっていることも確認できました。

以降のページでは、彼らのこのような環境に対する意識/行動などの「環境プロファイル」、及び、彼らの基本的な物事の考え方などの「価値観プロファイル」を詳しく説明していきます。

### 09年の新成人 = エコ・エリート



#### 【略歴(モデルケース)】

- 1988～1989年 誕生
- 1995年 小学校入学(6歳)
- 2001年 中学校入学(12歳)
- 2004年 高校入学(15歳)
- 2007年 大学入学(18歳)
- 2009年1月12日 成人式(19～20歳)

#### 環境プロファイル

##### “環境”に対する知識/意識

中学から「環境教育」を受けた結果、環境に関する知識は豊富。しかし、決して「それが絶対だ」とも思っていない。

##### “環境”に対する行動

「環境に配慮した行動(環境行動)」実施度はまだまだ低水準。  
 (“分かっているけどできていない”という一面も存在)

##### “環境”に対する企業活動への期待

「環境への対応」活動を企業任せにするのではなく、「一般市民」が率先して行っていくことが重要」意識あり

#### 価値観プロファイル

##### 合理的思考

物事の判断において、自分にとって「得か損か」という「合理的な判断/思考」をする傾向が強い。

##### バランス感覚

若者らしい「自己愛の強さ」と「チャレンジ精神」を持つ一方で、「安定志向」も持ち合わせるなど、バランス感覚に優れる。

## 【09年新成人の「環境プロフィール」：「環境」に対する知識/意識】

中学から「環境教育」を受けた結果、環境に関する知識は豊富。  
しかし、決して「それが絶対」だとも思っていない。

- 09年の新成人は、義務教育の中で「環境教育」を受けた成人の「第一世代」。  
→ 小学校からではなく、中学校に入ってから(ある程度分別がついてから)「環境教育」を受け始めた世代。
- 「自分達は環境に関する知識がある」と思っている一方で、それを「子供の頃から学ぶべき」意識は上の世代ほど高くない。  
→ 環境を「勉強」として捉え、手放しには受け入れていない可能性。
- 環境関連用語認知は「3R」や「グリーンコンシューマー」などで高い。但し、ビジネス関連用語は成人より低い傾向。

「09年の新成人」と「環境」との関わりについて調べてみると、彼らが義務教育の中で「環境教育」を受けて成人になる「第一世代」だと言えることが分かりました。(「環境教育」は、1998年から重視され始めたものの、本格化したのは2002年に開始された「総合的な学習の時間」に多く取り入れられて以降のようです。)そのため、彼らの中には中学時代から「環境」について学んできた人が数多く存在すると推察されます。

実際に彼らの「環境教育に対する意識」や「環境に対する知識」を尋ねてみると、「小中学校からエコについて学んだ」と答える人が多く、環境関連用語の知識も「3R」や「グリーンコンシューマー」を筆頭に豊富であることが確認されました(但し、ビジネス関連用語の認知は低い傾向)。一方で、彼らはその環境についての知識を上世代ほど重要視していないことも伺えます。思春期に差し掛かる中学時代から本格的に「環境」を学び始めた彼らは、それを「勉強」の1つと捉え、素直に「大事なこと」と受け入れているわけではないと考えられます。

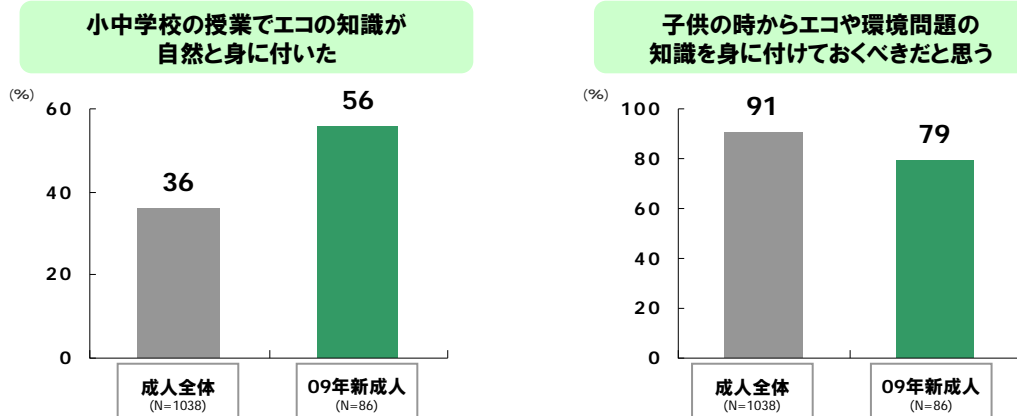
### 参考：「環境教育」について

- 1998年(09年新成人 当時小学3年生)  
… 1997年の京都議定書を受けた学習指導要綱改定(98年)により、  
小中高校で「環境教育」が重視され始める
  - ↓
  - 2002年(09年新成人 当時中学2年生)  
… 「総合的な学習の時間」開始により、「環境教育」はより充実(本格化)。
- ※ 「総合的な学習の時間」に「環境にかかわる学習」を「よくしている/ときどきしている」と回答した  
中学校教員：59.0%  
(出典：Benesse教育研究開発センター「第4回学習指導基本調査：2007年」)

### Data1：「環境教育」に対する意識

Q 次のエコロジーや社会・環境問題に関する項目について、あなたに当てはまるものをそれぞれお知らせください。

※ TOP2(そう思う計)スコア



## Data2 : 環境関連用語の認知

Q あなたは次にあげる用語・名称をご存知ですか。それぞれについて当てはまるものをお知らせください。

### 「09年新成人」の認知が高い用語

(%)	成人全体 (N=1038)	09年新成人 (N=86)
チームマイナス6%	45	53
3R	13	35
グリーンコンシューマー	7	17
カーボンフットプリント	6	9
低炭素社会	15	19

### 「09年新成人」の認知が低い用語

(%)	成人全体 (N=1038)	09年新成人 (N=86)
ISO14001	29	8
グリーン電力	24	17
カーボンオフセット	20	14
エコファンド	14	9
EMS(環境マネジメントシステム)	12	7

※ TOP2(内容まで知っている計)スコア  
※ 項目抜粋

## 【09年新成人の「環境プロフィール」：「環境」に対する行動】

### 「環境に配慮した行動(環境行動)」実施度はまだまだ低水準。 (“分かっているけどできていない”という一面も存在)

- 09年新成人の「環境に配慮した行動(環境行動)」実施度は、全般的に成人全体より低い。
- 「上の世代が環境の重要性を理解していない」と考える一方で、「自分達の世代のエコ意識は低い」と認識。  
 →「分かっているけれど行動できていない」状況と推測される。  
 (例)「ボランティア活動に抵抗感はないが、参加するきっかけがない」という意識がやや高い。

普段どの程度「環境に配慮した行動(環境行動)」を行っているかを尋ねたところ、09年の新成人は成人全体よりも全般的に行動実施率が低いことが分かりました。彼らが環境に関する豊富な知識を持っている割には、まだまだ行動に踏み切れていない様子が伺えます。(世帯の中でまだ「環境行動」の主体となっていない人が多いこともその一因と推測)

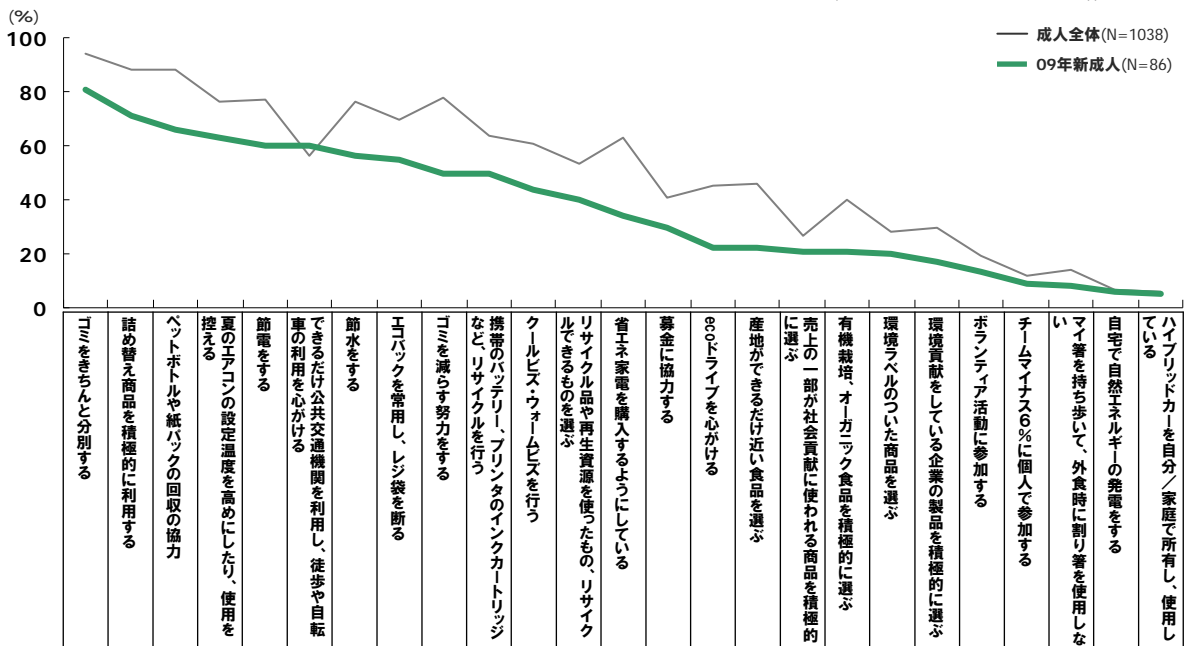
また、それを裏付けるように、彼らは上の世代に対して「環境の重要性を理解していない」と考える一方で、自分達の世代自身も「エコ意識は低い」と考えていることが確認できました。つまり、「頭では分かっているけれど行動はなかなかできていない」ということを、本人たちも自覚しているようです。その一例として、「ボランティア活動に抵抗感はないが、参加するきっかけがない」というような意識も一部見られました。

今後、彼らのこのような状況をどのように打破し、実行に導いていくかが重要なポイントだと考えられます。

Data3：普段の「環境行動」実施度

Q 次の行動について、あなたはどの程度行っていますか。

※ TOP2(必ずやっている+時々やっている)スコア

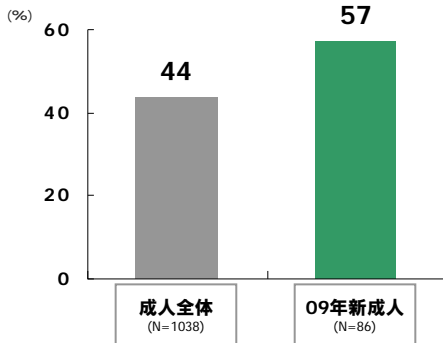


## Data4 : 環境に関する世代意識/ボランティア意識

Q 次のエコロジーや社会・環境問題に関する項目について、あなたに当てはまるものをそれぞれお知らせください。

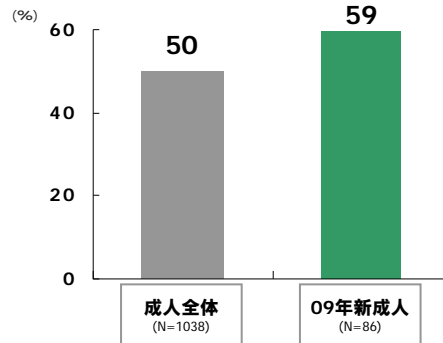
※ TOP2(そう思う計)スコア

自分より上の世代は、エコや環境問題の重要性を理解していないと思う



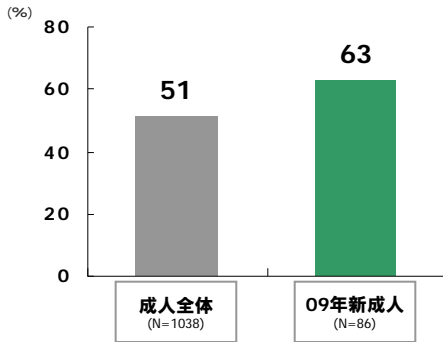
※ TOP2(そう思う計)スコア

自分よりも上の世代のライフスタイルが、環境問題を引き起こしたと思う



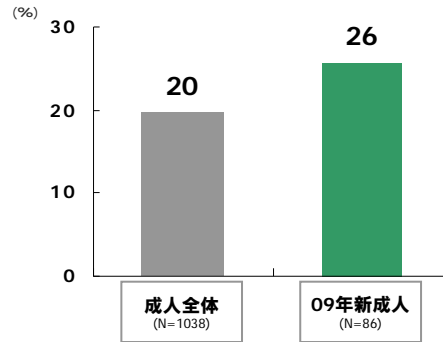
※ TOP2(そう思う計)スコア

自分の世代はエコ意識が低いと感じる



※ TOP1(非常にそう思う)スコア

ボランティア活動に抵抗感はないが、参加するきっかけがない





## 【09年新成人の「環境プロフィール」：「環境」に対する企業活動への期待】

### 「環境への対応」活動を企業任せにするのではなく、 「一般市民」が率先して行っていくことが重要」意識あり

- 09年新成人の企業への「環境対応」活動ニーズ(当然必要な最低限の取り組みと考える活動)は、成人全体より全般的に低い。
- 社会・環境問題に対して、成人全体では「企業が率先して取り組むべき」>「一般市民が率先して取り組むべき」だが、09年新成人では「一般市民が率先して取り組むべき」>「企業が率先して取り組むべき」。

各種CSR活動に対するニーズを尋ねたところ、09年新成人は「環境対応」のための活動も含め、全般的に「当然必要な最低限の取り組み」として捉える活動が少ないことが分かりました。(つまり、企業に対する「環境対応」活動ニーズは成人全体より低い)

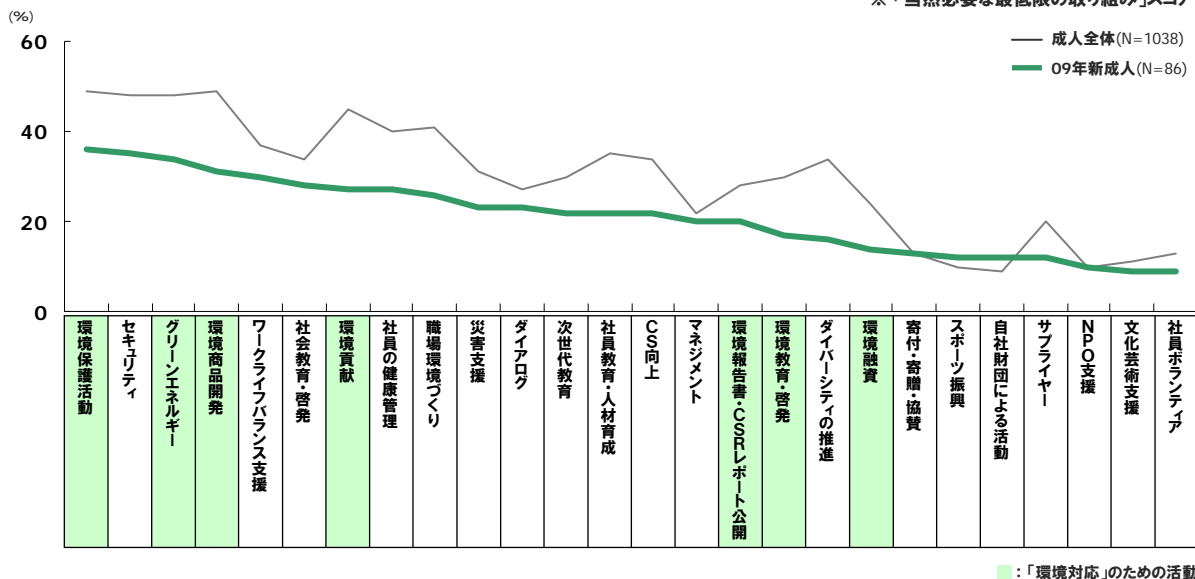
また、成人全体では社会・環境問題に対して「企業が率先して取り組むべきだと思う」が「一般市民が率先して取り組むべきだと思う」よりやや高くなっているのに対して、新成人では「一般市民が率先して取り組むべき」の方が僅かながらスコアが高くなっていることも確認できました。

環境についての知識を持っている彼らは、全てを企業任せにするのではなく、自分達からも行動していかなくては行けないということ、自覚していることが伺えます。

Data5：企業に対するCSR活動ニーズ(当然必要な最低限の取り組み)

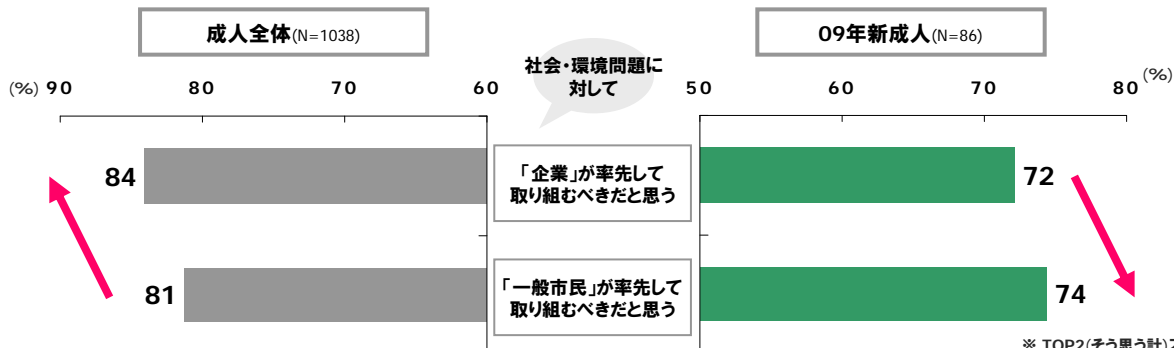
Q 次のあげるCSRの活動内容について、あなたのお気持ちに近いものをそれぞれお知らせください。

※「当然必要な最低限の取り組み」スコア



Data6：社会・環境問題に対する主体意識

Q 次のエコロジーや社会・環境問題に関する項目について、あなたに当てはまるものをそれぞれお知らせください。





## 【09年新成人の「価値観プロフィール」】

### 「自分の損得」で思考する“合理的”な一面と、 「チャレンジ精神」と「安定志向」を両立させる“バランス感覚”あり。

- 09年の新成人は、物事において「自分に得か損か」「気持ちいいかどうか」で判断を下す割合が上下の世代よりも高い。→「合理的に考える」傾向が上下の世代より強い。  
※ そのための自分に合った情報を探し出す能力にも長けている（ネットと共に育った「デジタルネイティブ」）
- 09年の新成人は、若者特有の「自己愛」「チャレンジ精神」に加えて「安定志向」意識も高い。  
→「1つの会社でできるだけ長く働くのがよい」意識が高く、「精一杯生きること」に努める意識が低い。

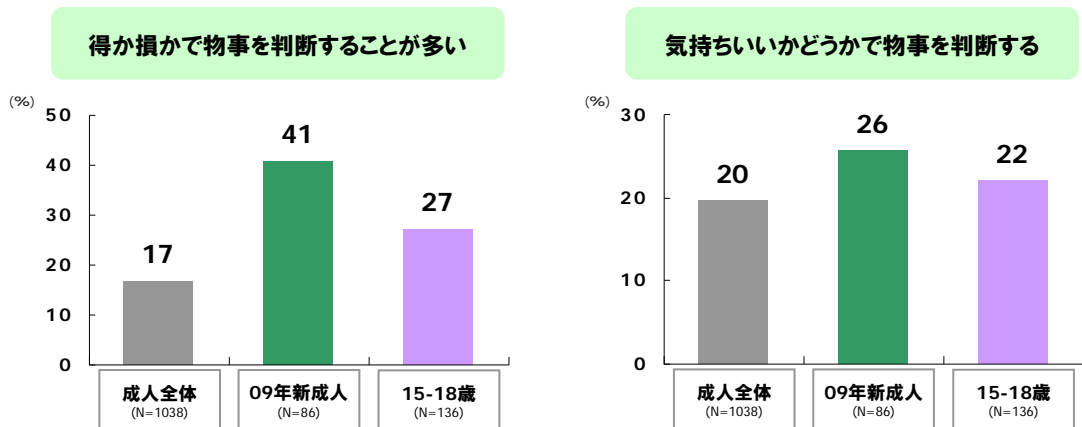
物事の判断に関する意識を尋ねたところ、09年新成人は「自分に得か損か」「自分が気持ちいいか」などを他の世代よりも重視し、非常に「合理的な思考」を行う傾向があることが分かりました。これについて、彼らが子供の頃からインターネットや携帯電話などと共に育った「デジタルネイティブ」であることを考慮すると、合理的な判断を下すための情報収集能力にも優れていると推察されます。

また、生活における価値観について聞いてみると、「認めてもらいたい」や「高い目標にチャレンジしたい」といった若者特有の「自己愛の強さ」や「チャレンジ精神」とともに、「1つの会社で長く働くのがよい」というような「安定志向」も持ち合わせていることが分かりました。

今後、彼らの「環境行動」を促していくために、このような「価値観」を考慮することが必要になると考えられます。

Data7：「物事の判断」に対する意識

Q 次の意識について、あなたのお気持ちとして当てはまるものを、全てお知らせください。（複数回答）



Data8：「物事の判断」に対する意識

Q 普段の生活において、あなたご自身に当てはまると思うものを、全てお知らせください。（複数回答）

